

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲口 甲口保 乙口 乙口保 口修	第 8 号	氏名	佐久間 愛
審査委員	主査 湯本 浩通 副査 片岡 宏介 副査 藤原 奈津美			

題目

Association between Motivation Scale Score and Oral Condition on Receiving Basic Periodontal Therapy

(歯周基本治療におけるモチベーションスケールスコアと口腔状態との関連性)

要旨

歯周基本治療時の効果的な動機づけは重要である。本研究の目的は、日本人の成人に対するモチベーションスケールスコア (MSS) の有用性を評価するとともに、MSSを用いて歯周基本治療における口腔状態に関連したモチベーションを検討することである。

対象は、歯科診療所を初診で受診した20~64歳の歯周病患者221名である。患者のモチベーション評価尺度に関する14項目の質問紙を用いてMSSを算出し、MSSの主成分分析を行った。また、ベースライン時および歯周基本治療後のMSSと口腔保健行動項目、歯周状態 (BOP率, PISA) および口腔衛生状態 (O' LearyのPCR) の関連を評価した。

MSSは信頼性と妥当性の点で有用であることが示され、5つの因子に分類された。ベースライン時BOP10%未満の者はBOP10%以上の者と比較してMSSおよびMSS-Factor1 (口腔衛生習慣:MSS-F1) が有意に高かった。また、年1回の歯科健診受診、歯間部清掃器具を使用している者では、MSSおよびMSS-F1が有意に高かった。二項ロジスティック回帰分析では、ベースライン時BOP10%以上と統計学的に有意な関連を認めた因子は歯間部清掃器具の使用であった。一方、歯周基本治療後の口腔状態および口腔保健行動に関する項目は、現在の喫煙状況を除き、すべて良好な改善を認めた。このうち、歯周基本治療後のPCR20%未満の者はMSSが有意に高く、歯間部清掃器具の使用および非喫煙者においてMSS-F1が有意に高かった。

本研究で用いたMSSは有用であり、ベースライン時の歯周組織状態および口腔保健行動と関連した。歯周基本治療後、MSSおよびMSS-F1の値は有意に増加した。また、歯間部清掃器具の使用は良好な口腔状態と関連し、MSSの高値とも関連した。したがって、高いモチベーションが歯間部清掃器具の使用により歯周病患者の口腔保健行動の改善に対するコンプライアンスに影響を与え、良好な口腔状態を導いた可能性が示唆された。

本研究の成果から、MSSは歯周基本治療時のモチベーション評価ツールとして有用である。それ故、本論文は博士(口腔保健学)の学位授与に値するものと考えられる。